

名胡桃城(板屋城)(県指定史跡, 続百名城)(利根郡みなかみ町下津字城平)

名胡桃城（なぐるみじょう）は、現在の群馬県利根郡みなかみ町下津にあった日本の城。1949 年（昭和 24 年）に「名胡桃城址」として群馬県指定史跡。利根川上流の右岸断崖部に位置し、川を挟んで北東に位置する明徳寺城と対峙する。

歴史的には、真田昌幸の沼田城の支城として、また 1590 年の小田原征伐の誘因となったことで著名である。2017 年（平成 29 年）4 月 6 日、続日本 100 名城（115 番）に選定された。

歴史・沿革

築城時期は、伝承によれば室町時代の明応元年（1492 年）に沼田城の支城として沼田氏によって名胡桃館が築かれたのが最初とされている。史料上では、上杉景勝との甲越同盟により東上野の割譲を受けた武田勝頼が、天正 7 年（1579 年）に家臣の真田昌幸に命じて、敵対関係となった後北条氏から沼田領を奪取するための前線基地として築いた城である。昌幸は小川可遊齊と共に名胡桃館を攻略して隣接地に築城、ここを足がかりとして昌幸は沼田城攻略を企図し、調略の結果、沼田城を手に入れることに成功した。

1582 年の武田氏の滅亡後、天正壬午の乱を経て独立した真田氏と後北条氏が沼田・吾妻領をめぐって争った。名胡桃城は沼田城の有力な支城として、沼田領に攻め入ってきた北条の軍を退けた。

名胡桃城事件

天正 15 年に豊臣秀吉は大名間の私闘を禁ずる惣無事令を発令した。徳川氏、北条氏、真田氏は共に秀吉の権威に伏した。沼田領については天正 17 年に裁定が行われ、昌幸が「祖先墳墓の地」とであると主張した名胡桃城を含めた全体の三分の一は真田領に、それ以外の沼田城を中心とする三分の二は北条領と定められた。同年 7 月に津田盛月と富田一白が沼田に派遣され榊原康政の指導のもとで沼田城は北条氏に引き渡された。名胡桃が真田氏の発祥の地であるとの昌幸の主張については、真田幸貫の命によって河原綱徳が編纂した真田家御事蹟稿などで否定されている。真田氏は手放した土地の代替地として信濃国箕輪を与えられた。

同年 11 月 3 日に、沼田城代の北条氏家臣猪俣邦憲が、真田氏の名胡桃城代鈴木重則家臣である中山九郎兵衛を寝返らせ、偽の書状で重則を上田城に呼び寄せた隙に名胡桃城を占領した。重則は岩櫃城において計略に気付き、急いで城に戻ろうとしたが間に合わず、恥じて正覚寺において切腹した。

昌幸は直ちに寄親である家康を通して秀吉に訴えでた。秀吉は 11 月 21 日付けで真田昌幸に書状を送り、「今後北条氏が出仕したとしても、城を乗っ取った者を成敗するまでは北条氏を赦免しない」旨を記している^[1]。24 日には北条氏との手切れ書を北条氏や諸大名に配布した。北条家当主氏直は豊臣側の詰問に対し、同年 12 月 7 日付け書状で「名胡桃城は真田氏から引き渡されて北条側となっている城なので、そもそも奪う必要もなく、全く知らないことである」旨を釈明している。

翌年 3 月に秀吉は軍勢を出立させた。小田原征伐の結果、後北条氏が滅亡すると全沼田領は真田氏が安堵し名胡桃城は廃城となった。実際に使用されたのは約 10 年間であった。

考古資料

遺構

遺構は馬出しから三郭・二郭・本郭・ささ郭と主要な郭が直に並ぶ連郭式の山城で、両側が切り立った天然の要害である。近年の月夜野町教育委員会による発掘調査で、土塁址・三日月堀・虎口・通路・門礎石址・掘立柱建物址などの重要な遺構が多数確認されている。廃城となった後、ほとんど改変を受けていないため、築城当時の遺構が比較的良好に残されている。

現地情報

- 所在地 - 群馬県利根郡みなかみ町下津 3437 番地

- アクセス - 関越自動車道月夜野インターチェンジより車 6 分、上越新幹線上毛高原駅及び JR 東日本上越線後閑駅からそれぞれタクシー利用 7 分。
- 群馬県指定史跡「名胡桃城趾」として整備されており、国道 17 号に面した城郭入口に名胡桃城趾案内所があり、般若郭（名胡桃館跡）が駐車場となっている。
- 本郭中央には大正 13 年（1924 年）3 月に名胡桃城保存会によって建立された、徳富蘇峰揮毫による『名胡桃城趾之碑』がある。

Wikipedia による



名胡桃城関連年表

永禄3年 (1560)	長尾景虎(上杉謙信)、関東へ出陣。上野沼田城などを攻略。
天正7年 (1579)	真田昌幸、武田勝頼の命で、名胡桃に本格的城郭を築く。
天正10年 (1582)	武田氏滅亡。真田氏と北条氏、上野利根郡・吾妻郡をめぐって争う。昌幸、沼田城を死守する。
天正14~17年 (1586~89)	昌幸が名胡桃城を含めて近隣諸城を補強改築する。
天正17年 (1589)	7月、豊臣秀吉が真田氏と北条氏の争いを調停。名胡桃城は真田氏のものとされる。11月、北条氏家臣の沼田城代猪俣邦憲が名胡桃城を奪う(名胡桃城事件)。これが惣無事令に違反したとして、秀吉の小田原攻めの口実となる。
天正18年 (1590)	秀吉による小田原攻め後、廢城となる。

名胡桃城は、ささ郭(ぐるわ)・本郭(ほんぐるわ)・二郭(にのくるわ)・三郭(さんのくるわ)等の主要部が直線に並んだ蓮郭(れんかく)式の山城で、各郭は堀切(ほりきり)でそれぞれ分断され、周囲は急な崖や石積みを持つ土塁(どるい)・柵(さく)・櫓(やぐら)で守られていました。二郭と般若郭(はんにやぐるわ)の通路脇には三時期に別れて掘立柱建物群(ほったてばしらたてものぐん)が建てられ、各虎口(こぐち)には門を設け、堀切には木橋や喰違(くいちが)いの造作がみられます。武田氏がよく用いた丸馬出(まるうまだし)が時期別に二ヶ所で確認され、三郭は後で増築したことがわかりました。

